

花 き

実況

1 キク



写真1 雪まつり

奥越は11月末でほぼ終了し、露地小ギクでは「うんかい」、
「水車」(白)、「かな」(赤)が11月上中旬に収穫された。11月
の出荷数量は日量で30~50程度であり、10月よりやや安い。JA
テラル越前キク部会の親株ハウス定植は10月下旬に行われた。

坂井の寒ギクは「雪まつり」が草丈111cm、葉数70枚、蕾径3.8mm、
「寒月夜」108cm、98枚、蕾径5.5mm、「たしろ」が90cm、43枚、
3.9mmで12月上中旬開花予定であり、あわら市富津の圃場では黒
さび病が中発生している。オオタバコガの食害を受けた株は草姿
が乱れている(11月22日調査)。

福井市東郷の寒ギクは「紅小路」草丈87cm、蕾径6mm、「金福」105cm、9mm、「雪まつり」91cm、
3mmで生育は順調である。二日市の「千福」は草丈88cm、蕾径9mmで、アブラムシ類がみられる。
次年度の中輪ギク、小ギクともに、親株管理中である(11月16日調査、昨年11月20日調査)。

二州(11月14日調査)の寒ギクは「金ロマン」が草丈60.8cm、蕾径2.5mm、「金ほまれ」55.0cm、
3.6mm、「新年の美」45.4cm、4.7mmでアザミウマ類少発、黒さび病微発である。

若狭の7月中下旬定植の寒ギクは11月14日調査(昨年11月20日調査)で、「冬一番」が草丈66.2cm、
蕾径4.8mm(昨年 95.8cm、9.5mm)、「寒桜」53.0cm、3.7mm(84.2cm、6.5mm)、「新年の美」89.2cm、
2.9mm(113.6cm、5.9mm)と昨年と比較してかなり遅い。同様に11月咲電照作型も「白馬」110.0cm、

表 1 暗期中断の有無が開花に及ぼす影響

品種名	暗期中断 の有無	開張長 (cm)	開花日	切花長 (cm)	葉数	茎径 (mm)	切花重 (g)	花数	花径 (mm)
雪まつり	無	9.5	12月27日	90	54	5.5	48	36	40
	有	9.1	12月19日	92	52	5.2	53	30	38
寒林	無	9.5	12月25日	91	37	5.5	71	27	34
	有	9.2	12月20日	95	40	5.4	82	26	33
冬山吹	無	10.3	12月25日	92	31	5.1	42	14	31
	有	8.8	12月21日	91	33	4.6	42	14	35
夢月花	無	13.4	1月16日	114	36	5.5	77	40	25
	有	11.9	12月31日	111	39	5.4	74	62	19
新年の花	無	21.5	2月22日	140	47	5.4	112	85	41
	有	18.7	1月23日	133	55	5.7	98	57	38
花化粧	無	13.0	12月23日	94	31	5.4	58	37	34
	有	11.8	12月17日	94	35	5.0	60	27	37
冬の旅	無	11.3	12月29日	104	44	5.6	70	52	26
	有	11.1	12月17日	108	47	5.7	87	54	29
寒桜	無	11.8	12月27日	91	39	5.6	57	28	39
	有	11.3	12月23日	92	41	5.7	68	27	34
雪かすみ	無	14.3	1月5日	108	49	5.1	71	162	19
	有	12.2	1月6日	112	52	5.1	65	142	15

定植日：2010年7月27日、暗期中断：8月10日~10月14日 (2010年 坂本ら)

立弁、「かおり」開花終了、「おちば」60.6cmと、ほぼ同時期に開花が終了していた昨年と比較して遅い。全体的にアザミウマ類がみられる。

これらのことから、年末採花作型は10月上中旬に電照をきる必要があると考えられる(表1)。

2 スイセン

越前町の促成栽培は11月16日調査で10月10日～11月中旬まで出荷が続いた。

露地栽培は11月8日調査で、花茎長10.4cm(昨年11月5日調査で9.3cm)であり、生育は昨年並となっている。出荷は11月16日現在で促成を含めて約4万本で、昨年の9万本より少ない。

3 ユリ

坂井の11月22日調査では、9月18日に定植された「エルディーポー」が草丈82cm、葉数91枚、蕾数6、茎径7.2mm、11月28日頃開花予定である(写真2)。「アイライナー」(9/17定植)が89cm、85枚、3輪、8.2mm、「バーボンストリート」(9/15定植)で93cm、72枚、4.7輪、8.1mm、11月18日開花、「アルプフェラ」(9/20定植)は85cm、112枚、5.8輪、5.5mm、11月29日開花予定。「ブラックアウト」では開花がほぼ終了した。オリエンタル系の「シンプロン」は99cm、86枚、4輪、蕾長3.1cmで、二重被覆、加温栽培(写真3)となっている。



写真2 エルディーポー(9/18定植)

4 トルコギキョウ

あわら市の7月下旬～8月上旬定植のトルコギキョウは11月中旬でほぼ収穫が終了し、翌春収穫の二度きり作型を行う予定である。八重咲品種はややボリューム不足の傾向があった。レイナ系の一部品種でロゼット状態の株がみられる。ハスモンヨトウ、炭そ病少発生した。

南越では、11月18日調査で9月中旬播き、11月8日～20日定植の「ボヤージュグリーン」、「一番星」等が本葉3対(昨年度「ロジーナブルー」、「バルカンマリン」等で本葉7対)である。

二州地区では「あすかの吹雪」「ブルーピコティ」が11月13日に定植された。



写真3 シンプロンの栽培状況

5 ストック

あわら市の8月8日直播で収穫終了し、8月15日直播が11月21日現在収穫中で、セル苗移植の7月28日播種で収穫初期であり、出荷量は日量8～15ケースとなっている。病害虫はシンクイムシ類、コナガ、アブラムシ類、菌核病が少発している。「アイアンマリン」に花とびが30～40%

発生し、ビビフルフロアブルとの因果関係は不明である。

福井では11月16日調査が、スプレーストック草丈8cm(播種9月中旬、定植10月上旬)で、南越の11月18日(昨年16日)調査のカルテットシリーズでは8月下旬から9月13日まで、段播きされている。8月下旬播種作型で、草丈60cm(54cm)、9月上旬播種作型では48cm(50cm)、9月中旬播種作型で36cm、蕾径10mmである。昨年なみの生育である。

二州の「アイアン」は9月23日播種、10月下旬定植で草丈8~10cm、葉数8~10枚となり、コナガが一部で発生している。

若狭では11月14日調査(昨年11月20日調査)で、9月中旬に定植した購入苗の「カルテットシリーズ」が草丈30cm(昨年草丈55~60cm)、葉数30枚、11月上旬に播種したもので本葉出始め(出始め)である。病害虫ではコナガが微発生である。

6 ハボタン

福井の切り花用ハボタンは、11月16日(昨年20日)調査で、福井市東郷の8月初旬に定植された「晴姿」が75cm(95cm)、「初紅」が79cm(75cm)、出荷開始は12月上旬の予定で、アオムシ少発生している。二日市の8月上旬に定植された「晴姿」が54cm、「初紅」が60cmで、目揃い会が11月28日に行われた。



写真4 フリージャの出芽

7 その他

あわら市で8月定植二度切栽培の金魚草(アスリート系、8月24日購入苗定植)は11月中旬で出荷はほぼ終了し、切り花長は70cm程度であった。オータムヴィオレは、10月最終週で出荷終了、デルフィニュームが11月下旬から出荷が始まっている。

春江のフリージャは草丈15cm程度である(写真3)。

対策

1 ハウスの雪害対策

- (1) 屋根の被覆材の取り付け部が雪止めとなり積雪が生じるので、金具や止め付け方法に注意し、雪の滑落をしやすい工夫をする。
- (2) 軒部に被覆材を突き出すと、屋根の融雪水がその部分で夜間凍結し、屋根雪の滑落を妨げるので注意する。



- (3) 東西に長い施設では、南側の屋根雪が日照により先に落下しやすく、一時的に北側のみ

に積雪状態となるので、北側に十分に支柱等を立てて補強する。

- (4) モウソウ竹やタルキを3~4m おきに立て、ハウスを補強する。建築用のジャッキ付サポーターは長さの調節ができ便利である。取り付け法は天井の直管に沿ってタルキなどの支柱を立てる。土へのめり込みを防ぐため床面が軟弱な場合は厚板やブロック（レンガ）等を置き、この上に支柱を立てる。ワイヤー等でハウスの肩を引き付ける（積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため）。筋交いを補強する。
- (5) 融雪パイプはハウスの肩部に敷設する。散水ノズルは片側ノズルを、パイプ径や水量に応じて50cm~1m 間隔に取り付ける。
- (6) 融雪パイプの割れ、漏水、散水ノズルのつまり等を降雪前に点検する。
- (7) ハウスサイドの地表面に幅1m 程度の古ビニールを敷き、融雪水のハウス内への流入防止と融雪の促進をはかる。
- (8) 施設の周囲は除雪の邪魔にならないように、後片付け、整理整頓をする。

2 8、9月咲きギクの親株管理

- (1) 親株の病虫害防除の徹底を図るため、1週間に1回の予防剤散布を励行する。苗床での防除は、面積も小さいので、薬量を少なく、回数を多くし、効率的に防除する。ただし、草丈が低い分、葉裏にかかりにくいので、丁寧に葉裏にかける。さび病等の病斑が隠れている場合があるのでよく確認する(写真)。特に本年は黒さび病が多いため、兼商ステンレス等で防除する。
- (2) 越冬親株が過湿になると、株枯れや病害が多くなるので、灌排水に留意し、過湿にならないよう管理する。
- (3) 親株の切除は12月中までには済ませ、冬至芽の摘心は1月下旬に地際部より2~3cm（葉3、4枚）を残して行う。折り取った茎葉はハウスの外に出す。特に防除前はハウス内の雑草を除去し、ダニ、アザミウマ等の隠れ場所をなくすようにする。
- (4) 12月の親株切除後ただちに白さび病や各種病虫害に対する防除を実施する。特にダニ類やアザミウマ類はいったん生長点部分に入ると防除しにくいので、ていねいな散布を実施する。近年、紋々病(キクモンサビダニ)がみられるので、よく注意する。



黒さび病と白さび病
親株の葉裏にみられる

3 スイセンの管理

- (1) 灌排水管理（ハウス温度管理）

圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壌水分が少ない場合は、灌水を行い、適切な水管理を行う。ハウスにあるスイセンでは日中は15℃程度になるように管理する。

(2) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

(3) ネットハウスは雪が付着するので、早めの雪対策を行う。

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3~4mおきに設置し、ジャッキなどで突っ張り、補強管理を行う(上部はハウスと連結すると良い)。ワイヤー等でハウスの肩を引き付ける(積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため)。筋交いを補強する(建設時に設置しておく)。

4 トルコギキョウの育苗管理 (3~4月定植もの)

(1) 近年は稚苗定植から大苗定植に移りつつあるため、育苗期間を長めに設定し、苗を12℃以下の寒さにあてないように管理する(5℃以下の寒さに長期間当たると生長点が弱り、側枝が増加することがある)。その場合、セルトレイは200~288 穴で深めのものを使用する。

子葉展開後は灌水代わりに1週間間隔で液肥を施用するが、表土の一部にでも青ゴケ等がみられたら施さない。寒波が来た時も同様である。

(2) 10℃で5週間程度種子冷蔵を行うことで、発芽勢がよくなり、開花が促進される品種が多いので、早生品種をまく場合は冷蔵処理を前もって行う。

(3) 好光性種子であるため覆土はせず、底面吸水かミスト灌水を行う。ペレット種子はペレット資材を種子から取り除くために軽く力を入れて、ペレットの被膜を割りながら播く。発芽後は底面灌水をやめ、細かいジョウロ等で頭上灌水する。また、灌水の水は冷たいものをさけ、温度を上げるように、溜め水したものを使う。

(4) 育苗温度は昼温20~25℃、夜温15~18℃として、夜間はトンネル等で保温する。場合によってはトンネル上に毛布やコモで保温する。

5 ストックの栽培管理

(1) 気温が下がってくると施設を閉め切りにすることが多くなり、多湿となりやすい。その結果、軟弱徒長となり、灰色かび病や菌核病といった病害が発生しやすくなる。厳寒期でも日中、晴れた日にはこまめな換気を行い、発生が起りにくい環境づくりに努める。

晴天が続かず、発生が懸念される場合は、早朝換気を行い、低温低湿度の空気を施設内に導入し、昼間昇温時の湿度を下げる工夫を行う。

(2) 灰色かび病や菌核病に対する治療剤は花き類やストックでは水和剤が多く、生育後期は薬斑による汚れが問題となるため、生育前半までにポリベリン水和剤1000倍等で防除に努め、生育後半は汚れが目立ちにくいフロアブル剤を使用する。アフエットフロアブル2000倍が利用できる。